

【ポスター発表】

## 保育士養成校学生における社会福祉学の理解に向けた新聞活用の実践

○ 山梨学院短期大学 田中 結香 (010189)

中村 成一郎 (独立行政法人地域医療機能推進機構山梨病院・010191)

キーワード：社会福祉、新聞、NIE (Newspaper in Education)

## 1. 研究目的

近年子育て環境をめぐる課題は、児童虐待の増加やひとり親家庭の増加、子どもの貧困と格差の世代間連鎖等、社会における地域課題が山積している。子育て家庭を支援をする保育士にとって、社会における地域課題を把握することは、様々な保育ニーズに対応する上で重要である。学校等で新聞を教材として活用する活動である NIE (Newspaper in Education) を基盤に、講義内で新聞を活用しながら社会における地域課題の把握への興味を引き出すことに取り組む意義があると考え。本研究では、保育士養成校での社会福祉の関連科目において、社会における地域課題の理解に向けた新聞活用の意義について分析し、今後の社会福祉に関連する科目の講義において効果的な教育方法を検討する一助とすることを目的とした。

## 2. 研究の視点および方法

先行研究では、NIE 授業の実践報告はあるものの特定の研究者のみである。授業構成は教員の経験値や学生の人数等によって変化することから、このような研究を積み重ねていくことの重要性があると考え。

### 1) 授業内での新聞の取り扱い

A 短期大学で、2024 年度後期の「子ども家庭福祉」と「子ども家庭支援論」の授業において、毎回冒頭で「今週の新聞コーナー」と題して地方紙の地域課題に関連する記事を紹介する時間を設けた。加えて、特定の機関の新聞記事を選定し、記事の内容と社会福祉の視点を関連させて考察する「新聞レポート」作成の課題を課した。

### 2) 対象と方法

A 短期大学で、2024 年度後期に「子ども家庭福祉」を受講した 1 年生 108 人と「子ども家庭支援論」を受講した 2 年生 124 人のうち、履修放棄した学生を除き、第 15 回の講義終了後において新聞を活用した講義に対する認識について自由記述を求め、研究への同意を得た学生 218 人のテキストデータを分析の対象とした。

分析には統計ソフト KH Coder (Version:3.02c official-package) を使用し、計量テキスト分析を行った。分析方法は、KH Coder を用い、共起ネットワーク分析とした。

## 3. 倫理的配慮

本研究の遂行にあたり、「一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規定」を確認し、人

権の尊重、個人情報保護の確保、研究の倫理性の確保、研究者としての責務、知的所有権の侵害の禁止を遵守した。開示すべき COI 関係にある企業はない。

#### 4. 結果

サブグラフ検出による出現パターンは 11 のグループに分かれた。これらをもとに、KH coder の KWIC コンコーダンスを使用し、語の文脈を確認しながらグループ名の分類を行った。【子ども家庭福祉分野の問題の理解】【社会における問題の理解】【現在の社会情勢を知る機会】【新聞に触れる機会】【新聞記事の解説の必要性】【情報収集による学修】【読解力や記述力の向上】【新聞への関心】【地方紙による地域課題の理解】【教員の説明による情報の獲得】【有意義な時間】と命名した。

#### 5. 考察

##### 1) 社会問題を主体的に探索する必要性への気づき

【子ども家庭福祉分野の問題の理解】を始めとした【社会における問題の理解】をすることは、目の前の子どもや家庭に適時の社会問題がどのように影響しているのか、子どもや家庭の問題をシステム理論で捉える際の一助となると考えられる。そのため、「新聞コーナー」を設けた授業構成としたことで、【現在の社会情勢を知る機会】を獲得することとなり、少なからず保育士に関連する適時の社会問題を理解する契機になったと考えられた。また、自主的に新聞を読んだりニュースを見たりする学生が増えたり、家族やきょうだい等の身近な人とニュースの内容を検討する機会を設けた学生もおり、【新聞に触れる機会】を設けることによって、学生が社会における最新情報を主体的に探索する契機になると考えられた。

##### 2) 専門性の向上への貢献

学生からは、「説明があったことで情報が入りやすかった」との感想があったことから、【新聞記事の解説の必要性】が明らかとなった。また、課題により強制的に新聞を読む機会を設けたことで、社会問題に対する【情報収集による学修】を全員が行った。これにより、【読解力や記述力の向上】への影響が考えられた。

##### 3) 新聞を活用することの意義

新聞コーナー及び新聞レポートを実施したことで、【新聞への関心】を抱く契機の一つとなったことが明らかとなった。特に A 短期大学の所在する A 地域の地方紙を活用したところ、「自分の住んでいる地域でこのようなことがあるとは知らなかったので知る良い機会だった」との感想があり、【地方紙による地域課題の理解】ができていた。また、新聞コーナー及び新聞レポートを実施し、【新聞に触れる機会】を確保した上で、【教員の説明による情報の獲得】ができていた。学生からは、【有意義な時間】であったとの感想が多かったことから、今後も新聞を活用した授業を継続していく意義があると考えられた。一方で、学生に継続して新聞を読んでもらう働きかけについて検討していかなければならない。その一つとして、今後は地元の新聞社が実施している NIE との連携も検討していきたい。